

沢池の再性 ～バス池からメダカ池～ 生物多様性の実感

越川敏樹（ホシザキグリーン財団環境修復マネージャー）

外来生物の導入によって引き起こされる生態系のかく乱は、現在ではいろいろな場面で目にすることがある。

雲南市の沢池は、かつて釣り目的に放流されたオオクチバス（通称ブラックバス）の大繁殖によって、これまでとは大きく異なった生態系へと変貌し、生物多様性の劣化とともに農業用水としての水質悪化も懸念されはじめていた。

そのような中、2010（H22）年には『全国ため池百選』に選定されたこともあり、地域住民と関係者は、事態に危機感を抱き『バス駆除』に乗り出した。

さっそく、翌年2011（H23）年11月に、1ヵ月間の水抜きを経て、バスの全面捕獲を実施した。

そして、バス駆除後の沢池の環境修復について、『沢池生態系修復プロジェクト』が立ち上げられ、池の再生に向けての歩みが始まった。

その際、ホシザキグリーン財団はこの活動の中で、プロジェクト会員ならびに関係者とともに各種の調査を行いながら周辺を含めた環境改善、在来生物を中心とした移植実験、環境学習や啓発活動などの取組を行うことになった。

このような、修復に向けた活動が5年経過した現在、沢池に生息する生物は序々に増えてきて、オオクチバスによって著しく単純化された生態系はかなり改善されてきた。

今回は、その過程を紹介する。



バス駆除



メダカ池